言心先生の中国便り

銃撃事件の余波

十月一日、アメリカのラスベガスで銃撃事件が発生した。広場での音楽会に参加した58人が死亡し、五百人以上が負傷した。この未曽有の惨劇に対し、世界各国の人々が同情の念を表した。

十月初旬、中国の中秋節と国慶節の長い休みに、大勢の中国人がラスベガスを訪れたが、幸いに現地の中国人に一人も被害者は出なかった。

この被害者が出なかったという不思議なことに対して、中国のネットで冗談半分の見解が発表された。中国人が巻き込まれなかった幸運の原因は、彼らの目的は音楽会に参加することではなく、世界一の賭博場のラスベガスに賭博のために来たということである。今の中国人は音楽会に参加するという文化や習慣がほとんどなく、中華文化の真髄の一つのギャンブルに対しては、老若男女を問わず、ほとんどの人が好きなのである。今回の事件で、皮肉にも中華文化の偉大な一面は十分に証明されたということである。

アメリカの中国人からはこの事件に対して、皮肉や攻撃、興奮的な言葉が沢山ネットに出回った。例えば、本当に嬉しそうに、アメリカの終焉の始まりであるか、アメリカが非常に危険な国であるか、我々の祖国中国は世界一安全な国である等の言論である。

以上の言論には一理があるのかもしれないが、アメリカが自由に銃を持てる国である事と銃を持てない中国とを比べること自体がおかしいと思う。ネット上で大勢の人がアメリカで一年中沢山の人が銃撃事件で命を落としているが、なぜ銃を禁止しないかという疑問を提出した。ある評論家は、アメリカ憲法では公民が銃を持つ自由を定めている、立法の趣旨は弱い立場に立つ民衆が強い公権と対峙するため、やはり銃を持つ自由が必要であると指摘した。

今、中国で数えきれないほど庶民の家が無理やり撤去される事件が多発している、もし、中国人が銃を持つ自由があれば、この庶民の権利を著しく侵害する事例は大幅に減少するだろうという皮肉の意見も出てきているのである。

陶陶酒本舗の栄養補助食品 通信販売
携帯電話、PHSからもOK！ フリーコール 0120-039-064
<電話料無料>お問い合わせ／午前9時～午後5時 月～金(祝・祭日等除く)・お申し込み／午前9時～午後9時 年中無休
オンラインショップ